

深川市農業対策協議会

深川市内小中学校や飲食店などに深川産米を寄贈

農業
振興部

深川市の生産者や行政、当JAなどの農業関係団体で組織する深川市農業対策協議会（遠藤良明本部長）は、市内の小中学校や保育施設、飲食店に深川産米計約1.6tを寄贈した。

この寄贈は、同協議会が毎年7月下旬に農畜産物のPR活動と地産地消の普及を目的に開催する「スローフードフェスタ」が今年は新型コロナウイルスの影響で開催中止になったことを受け、コロナ禍でも地元の食材を広く市民にPRする機会を継続し、また地元市民や外出自粛によって影響を受けている飲食店を応援しようという思いから企画した。

同協議会では「深川産米ななつぼし1袋（300g入り）」を約5,400袋用意し、21日には市内の保育施設11か所、25日には市内の小中学校8か所と企画の趣旨に賛同した飲食店64店舗を訪問し寄贈した。

深川市立深川小学校を訪問した遠藤本部長は、「子ども達に地元のお米をたくさん食べてもらい、元気になってほしい」と深川産米を手渡し、受け取った佐藤浩之校長は「未来を担う子ども達のために贈呈いただき心より感謝します」とお礼を述べた。



JAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」 第3講を開催



農業
振興部

9月8日、JAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」の第3講が北広島市で開催され、受講生27名が参加した。第3講は「農福連携を学ぼう!」と題し、農福連携について事務局からの説明後、北広島市の（同）竹内農園を視察した。

竹内農園では、代表社員の竹内巧氏より農福連携に取り組んだ経緯や、実際に障がい者の方々がどのような作業を行っているか、また障がい者でも収穫しやすい大きさや固さなどを品目選定の基準とした野菜を15種類栽培していることなどについて説明を受けた。新規就農7年目の竹内氏は、「障がい者のために働ける環境である農家をしていきたい」と強く語った。

竹内農園の視察のほか、今年6月にオープンしたJA全農が運営するレストラン「みるのダイニング」での昼食や、ホクレンが運営する直売所「くるるの杜」で新鮮な農畜産物や道内各地の加工品などの買い物も楽しんだ。参加した受講生は「農福連携の取り組みについてよく知らなかった。学べてよかった」と感想を話す。

※体温測定やマスクの着用、手指等の消毒など新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で開催しています。

【営農企画課 佐藤】

